



# Newsletter

科学技術分野の未来を拓くー高専における男女共同参画ー

第3号  
2014.3

■全国に点在する女性教職員のネットワークづくりを支援！

## 平成25年度 女性研究者研究交流会を開催しました

### PROGRAM

- 10:00 研究発表 I
- 13:00 開会挨拶 小畑秀文理事長
- 13:05 来賓挨拶  
和田勝行氏 (文部科学省 科学技術・学術政策局  
人材政策課人材政策推進室長)
- 13:10 事業説明 上田悦子教授 (奈良高専)
- 13:20 基調講演 「高専における女性研究者支援の意義」  
山村康子氏 (科学技術振興機構 科学技術システム改革事業  
プログラム主管)
- 14:00 パネルディスカッション  
御手洗容子氏 (物質・材料研究機構)  
田村隆弘教務主事 (徳山高専)  
高橋晶子准教授 (仙台高専)
- 15:25 研究発表 II
- 17:05 閉会挨拶 岩熊まき理事

### 全国51高専から100名の女性研究者が参加！

平成25年12月20日(金) 学術総合センターにおいて、第2回の「女性研究者研究交流会」を開催しました。昨年を上回る参加者があり、全国51校から女性教職員100名が一堂に会し、活発な情報交換、交流が行われました。

午前はポスターセッション I、午後は、理事長の開会挨拶で始まり、文科省科学技術・学術政策局人材政策課 和田人材政策推進室長の来賓挨拶、奈良高専上田教授による女性研究者支援の機構の取組報告の後、基調講演、パネルディスカッション、ポスターセッション II が行われ、参加者からは「他の高専の方と色々話すことができ励みになった、心強かった」と感想が寄せられました。



小畑理事長による開会挨拶

### 基調講演・高専における女性研究者支援の意義！

科学技術振興機構科学技術システム改革事業プログラム主管の山村康子氏より基調講演をいただきました。

日本の女性研究者の現状、国の女性研究者支援・育成事業の概要や各機関の取組事例の紹介があり、高専での女性研究者支援について「次世代育成を推し進めてほしい、新たなキャリアパスを増やしてほしい」と期待を示唆して講演を結ばれました。

### 初のパネルディスカッション！



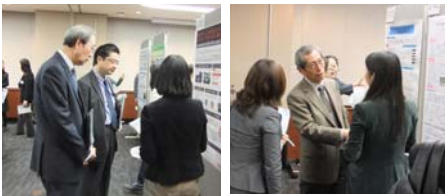
(左より)

コーディネーター  
五十嵐一男理事  
コメンテーター  
山村康子氏 (ISTプログラム主管)

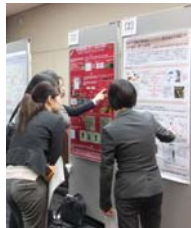
パネリスト

御手洗容子氏 (物質・材料研究機構環境・エネルギー材料部門  
構造機能融合材料グループ グループリーダー)  
田村隆弘教務主事 (徳山高専)  
高橋晶子准教授 (仙台高専)

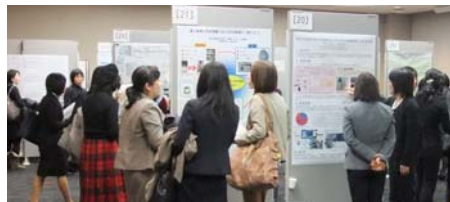
### 活発なポスターセッション！



会場での文科省和田室長と五十嵐理事 (左) 小畑理事長 (右)



岩熊理事による閉会挨拶



ポスターセッションでは73名の発表があり、日頃の教育研究活動の成果やワーク・ライフ・バランスについて発表・紹介を行い、専門分野・地域・年齢等を超えて交流を深めました。

会場内は大勢の参加者であふれ、各ブースで熱気を帯びた意見交換や情報交換が繰り広げられました。

「高専で女性研究者が活躍するための課題～一人ひとりの取組から考える～」をテーマに、3名のパネリストよりそれぞれの立場から発表をいただきました。御手洗氏からはご自身の経験を通して、育児と仕事のバランスを保つためのポイントについて、田村教務主事からは外部資金の獲得を中心に、女性研究者が研究活動を持続して行くための要点について、高橋准教授からは子育てしながら仕事で直面する現状とご自身のスタイル・考え方について紹介があった後、ディスカッションが行われました。

会場からも活発な発言があり、介護、ハラスメント、意識改革、周囲の理解、多忙業務、人事考課などについて多方面に率直な質問・意見が出され、関心度の高い有意義なパネルディスカッションとなりました。

コメンテーターの山村氏からは、「制度でやれることには限度があり、人と人とのつながりを大切に、ギブアンドテイクの関係を作る事が大事。研究費を獲得し自らで支援員をつけるなど自立的意識を高めてほしい。また、個人の努力だけでなく学校がバックアップ体制をつくることも重要である。」とアドバイスをいただきました。

【次年度予定】平成26年12月15日(月)

アンケート結果  
ピックアップ

## 男女共同参画に関する アンケート調査結果

対象：7127人  
回答：3,732人 回収率：52.4%  
性別：男 2,778人、女 933人  
職種：教員1,808人、技術職員422人、事務職員  
1,069人 非常勤354人、その他58人

アンケート結果公開：「KOALA」保存場所  
X:¥KOALA¥G\_管理運営 ¥02\_諸会議(本部事務局)  
¥1130\_男女共同参画推進委員会  
¥2013H25¥男女共同参画に関するアンケート調査結果報告

機構では、平成24年度に初めて「男女共同参画に関するアンケート」を全教職員を対象に実施しました。今年度、調査結果をまとめ、最終報告書として「KOALA」上に発表し、みなさまに公開しています。  
調査は「基本的事項」「出産・育児・介護支援について」「男女共同参画の取り組みについて」「男女共同参画行動計画の目標達成に向けて」の4つの項目、22個の設問に答えていただきました。自由記述の設問では多様な意見が寄せられました。まとめたアンケート結果のごく一部をピックアップしてご紹介します。

### 出産・育児・介護支援について

#### Q1 「職場の状況は、産前産後休暇や育児休業、介護休業等とりやすい環境にあると思いますか」

全体の半数以上が取りやすい職場環境にあると回答している。一方、教員の場合は、5割が性別に関わりなく取りにくい環境にあると回答し、授業・研究指導、学生指導、人的余裕がない、代替教員確保が困難などが理由に挙がっている。取りやすい環境でも、自分自身が取得する場合は困難な問題があることが窺える。

#### Q2 「育児・介護と仕事を両立させる場合、どのような問題や困難がありますか(3つ選択)」

病児の看病と育児や要介護時の残業が最も多く挙がっている。特に女性の場合は、「病児の看病」が66.9%と際だって高い。育児・介護の役割を女性の方が引き受ける状況になっていると思われる。

#### Q3 「現在、自分の生活は、ワーク・ライフ・バランスがどの程度とれていると思いますか」

全体では半数以上が概ねとれていると回答しているが、教員の場合は、とれていない割合が男性教員50.3%、女性教員54.0%と他の職種より高く、教員の多忙化がその実現を困難にしている実態があるものと推察される。

### 男女共同参画の取組について

#### Q4 「“2020年30%”についてご存知ですか」

全体として認知度は男女ともに過半数を下回った。一方、女性教員の場合は、「よく知っている」、「知っている」合わせて42.7%あり、意識の浸透が図られている。

#### Q5 「高専機構(学校)において性別による差別を受けたと感じたことがありますか」

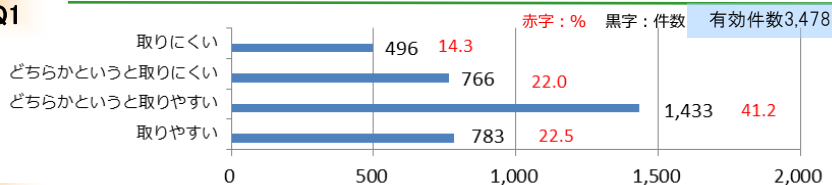
全体の9割が「ない」と回答したが、女性教員の場合は3割が「差別あった」と感じている。具体的内容は、男性教職員では「職務内容・宿直」、女性教員では「差別発言・パワハラ」、女性事務では「お茶くみ・掃除」が上位に挙げられる。

### 男女共同参画行動計画の目的達成について

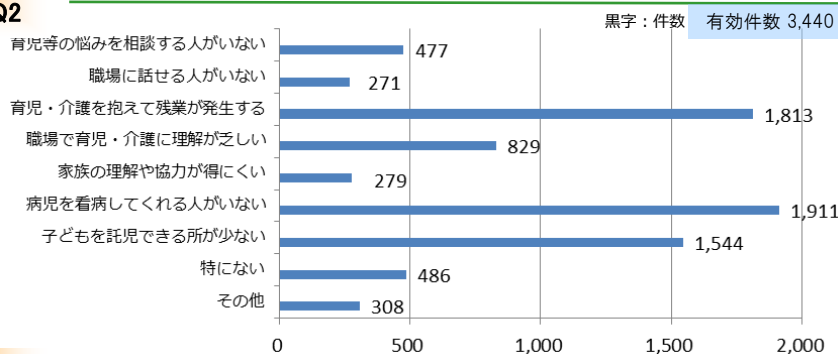
#### Q6 「機構(学校)で有効と思われるポジティブアクションについてお答えください(複数回答可)」

「女性教員の積極的採用」が第1位で最も多いが、第2位以下は性別により違いがあり、女性では「女性教員の採用・昇任数に応じた人件費増額」が、男性では「女性限定公募」が挙がっている。女性教職員は女性教員の採用比率の向上よりワンパワーの支援を望んでいることが注目される。

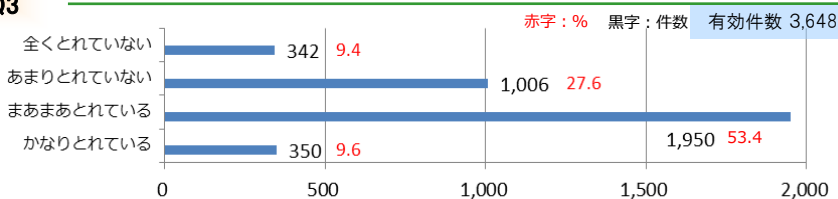
#### Q1



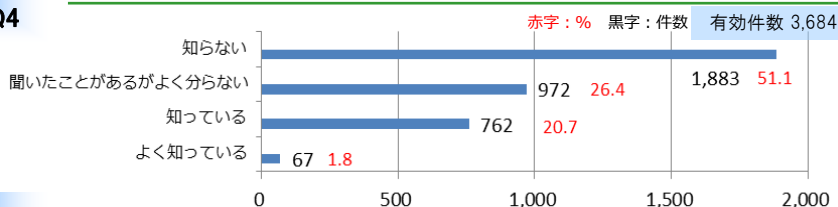
#### Q2



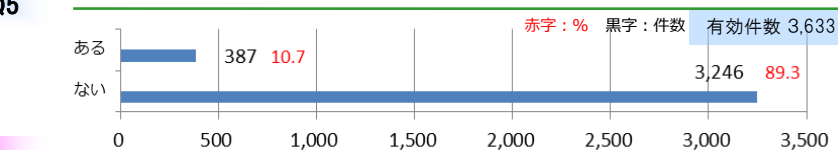
#### Q3



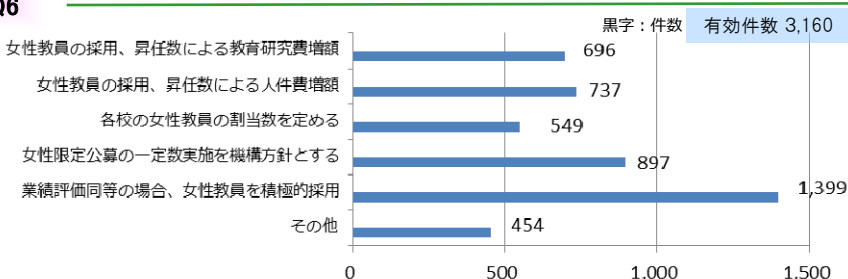
#### Q4



#### Q5



#### Q6



### 2020年30%とは…

- ★「30%」は政策・意思決定過程への女性参画の政府目標です。(平成15年6月20日男女共同参画推進本部決定。)
- ★経営学者のロザベス・モス・カンターは、組織を活性化させるにはマイノリティ(少数派)の占める割合が30%必要という現象を理論化しました。男でも女でも少数派に属する方が不利になるので、外部からの介入によって人数の平等を積極的にはからねばならないとする「カンター理論」は、ポジティブ・アクションの理論的背景ともなっています。

### ポジティブ・アクションとは…

- ★過去の歴史的・構造的差別の結果をより早く是正するための積極的手段です。
- ★過去ではなく現在の不均衡を是正するためにもポジティブ・アクションで環境を変えて行くことが必要と考えられます。
- ★女性の割合が増え、男女がともに活躍する社会になること自体が、ダイバーシティというメリットをもたらします。
- ★法的根拠：男女共同参画社会基本法2条、男女雇用機会均等法8条(「女性のみ・女性優遇」の措置は法に違反しない旨が明記)



## 高知工業高等専門学校 総合科学科 准教授 永原 順子

2008年3月 京都大学大学院 人間・環境学研究科  
文化・地域環境学専攻 博士後期課程修了  
(学位取得) 博士(人間・環境学) 取得(京都大学)

2009年4月 現職

(職歴) ・大阪天満宮文化研究所研究員(2003年4月～)  
・国際日本文化研究センター機関研究員(2007年4月～)  
\*非常勤講師(1998年4月～)  
京都市立日吉ヶ丘高等学校、花園大学、岡山健康医療技術  
専門学校、夙川学院短期大学、等

### ●仕事の内容、やりがいは？

本日は終業式。今年は、1年2組の担任を務めました。担任は3度目ですが、「学生とともに楽しんで苦しんで、毎回なにかしらの発見があるなあ」と感慨に耽りながら筆を執っております。そのほか、キャリア支援室副室長、男女共同参画推進委員長、と、いろいろチャレンジさせていただきました。高専女子フォーラムin四国の準備、高専女子百科Jr.の作成が重なって、てんてこ舞いな年度末でしたが、今更ながら高専女子の「女子力」に気付かされ、頼もしいリケジョの成長に嬉し涙です。

研究は、ざっくり申しますと「日本文化論」です。主な対象は、ジャンルや新旧を問わず、能楽、妖怪、祭礼、アニメ…etc. 能のストーリーや、妖怪のキャラクター性に秘められた日本人の思想・精神を探求しています。また、機械工学科の先生と、南国市の偉人「からくり半蔵」の共同研究をしたり、環境都市デザイン工学科、電気情報工学科の先生と、となり町の赤岡に伝わる「絵金」(芝居絵屏風)の鑑賞用アプリを共同開発したり、高専ならではの研究にも取り組んでいます。

### ●仕事と生活とのバランスは？

夫とは、高知高専で出会いました。先輩なので、いろいろと教わったり、サポートしてもらったり、と、いつも感謝感謝！です。

「職場が一緒だと大変じゃない？」と聞かれることもありますが、研究に取り組む姿、学生に囲まれて楽しそうな姿を見られるのはとても幸せに感じます。もちろん「わたしもがんばらなければ…」と闘志も湧いてきます。ただし、夫は学生を指導するのが恥ずかしくなるくらい整理整頓が苦手なので、今年こそは“断捨離”させようと、少しずつ頑張っています。

一方、自分も、忙しいことを口実に家事がかなり手抜きになってしまっています(冬はお鍋ばかりになってごめんなさい！お皿洗いありがとう！)。

学科にて。

右は夫(秦隆志准教授)



“妖怪”と“科学”の発想は同じ！？



上:「百鬼夜行絵巻」下:「化物尽絵巻」  
(国際日本文化研究センター所蔵)

### ●休みの日の過ごし方、ストレス発散方法は？

休みの日は、夫やわたしの実家に帰って、みんなで美味しいものを食べに行ったり、夫婦2人で旅行したり、などなどで過ごしています。

カラオケで大きい声を出して歌うとすっきりします。気の置けない仲間たちとわいわい宴会するのも楽しいです。運動不足が気になるので、今年は「体を動かしてストレス発散！」も加えたいと思っています。

少し真面目なお話になりますが、研究会や学会などで研究発表・ディスカッションをしてその後の交流会でさらにディープな研究談義を行い、自分の世界を広げ、次の研究ネタを発見していくこと、これもストレス発散です(いや、それは研究者の本分だろう、という声が聞こえてきそうですが、脳が嬉しがっているのを実感できるので楽しいのです)。

### ●後輩へのメッセージ

高専では文系は少数派です。「へー、高専って文系の先生もいるんだー」と言われたこともあります。正直、高専へ来るまでは、研究が続けていけるのだろうか、と不安でした。着任してから、地域の祭礼や歴史文化のフィールドワークを行いつつ、他学科の先生方とお話をしているうち、一緒に研究させてもらえたら面白いかも！？と考えるようになりました。先述の「からくり半蔵」「絵金」の共同研究を始めるきっかけです。少数派だからこそできることはなんだろう？と考え方を変えたら新しい扉を開くことができました。最近は、“妖怪”も“科学”も、その出発点は、身近な「?」「!」を解き明かしたいという人間の本能にある、という持論をもとに、日本の伝統文化から科学を捉え直すことに挑戦中です。そもそも、文系と理系、と分けて考えるのは間違いなのかもしれないですね。

皆さんも高専で新しい扉を開けてみませんか？

## 2013高専女子フォーラムin関東信越

「2013高専女子フォーラムin関東信越」が平成25年12月23日（月・祝）に学術総合センターにおいて開催され、企業関係者をはじめ、女子中学生・保護者等300名を超える参加者がありました。8月の高専女子フォーラムin関西に続く全国地区開催の第二弾として、活発な情報交換・交流が行われ「高専女子ブランド」を高める機会となりました。

小畑秀文理事長による開会挨拶の後、女子高専生がポスター発表を行いました。高専の教育・研究活動・学校生活などをテーマに27件のポスタープレゼンテーションがあり、企業関係者に高専女子学生のポテンシャルの高さをアピールしました。

引き続き行われた企業25社によるプレゼンテーションでは、企業内での男女共同参画の取組などについて情報提供があり、積極的に質問を投げかける女子学生や教員の姿も多くありました。

閉会挨拶では、代表幹事校の東京高専古屋一仁校長より企業関係者に謝辞が述べられました。

【次回 開催地区】 代表幹事校：香川高専  
四国：3/21（金・祝）アルファあなびきホール（高松市）

【平成26年度 開催地区】  
東海北陸：8/25（富山市）、北海道：9/6（札幌市）、中国：12/20（広島市）



## 高専教員職ガイダンス（お茶の水女子大学）

日時：1月30日（金）17:00～18:00  
説明：上杉准教授（舞鶴高専）、松尾講師（鈴鹿高専）

お茶の水女子大学（学生・キャリア支援センター主催）のOG懇談会において、高専教員職ガイダンスを行いました。

高専教員が講師に出向き、高専の概要や教員の仕事を説明するとともに、人事課担当者が採用に関し説明しました。

十数名の学部生・院生が参加し、メモを取りながら熱心に聞き入る学生も多く、高専教員職に興味をもった様子がうかがえました。ガイダンス終了後

は、OGの講師を囲み和やかな雰囲気の中、質疑応答が続きしました。



お知らせ

### 平成26年度 高専教員募集合同説明会（予定）

日時：平成26年6月1日（日）13:30～16:30  
場所：学術総合センター（東京都千代田区一ツ橋2-1-2）

現役の女性教員が具体的な事例を交えて高専の教員の職務について説明。高専ごとの個別相談コーナーも出展。

## ● オフィス企画

### 高専女子学生向けキャリア形成支援ワークショップ

女性研究者支援オフィスでは、高専女子学生支援の一環として、「自分のキャリア」について考える機会を提供する「高専女子学生向けキャリア形成支援ワークショップ」を企画しました。これは、女子学生向けに、女性研究者・技術者として「人や社会とどう関わっていきたいのか」を自覚し、自分らしい姿勢でキャリアを形成していき、意欲を高めてもらうための取組です。企画テーマは「高専女子キャリアデザイン」としてPart1～3まであり、グループワーク中心の参加型プログラムです。支援オフィスのキャリアカウンセラーがファシリテータとして出向き、各高専が希望するテーマでワークショップを実施します。今年度は高専の協力を得て、4校で開催しました。



#### ■ 香川高専

11月21日（木）15:30 於 高松キャンパス  
11月22日（金）15:30 於 詫間キャンパス  
Part2 『仕事の可能性について』  
参加学生 本科4・5年、専攻科1・2年

#### ■ 呉高専

12月11日（水）15:20  
Part1 『対人コミュニケーションについて』  
参加学生 本科3～5年

#### ■ 長岡高専

1月14日（火）16:10  
part1 『対人コミュニケーションについて』  
参加学生 本科3年、専攻科1年  
1月15日（水）8:40  
part2 『仕事の可能性について』  
参加学生 本科5年、専攻科1年  
2月21日（金）8:40  
part3 『将来のライフプランニングについて』  
参加学生 専攻科1年

#### ■ 仙台高専

1月21日（火）16:00 於 広瀬キャンパス  
part2 『仕事の可能性について』  
参加学生 本科4年・本科2年  
（広瀬・名取キャンパスから参加）

ワークショップをご希望の高専は、女性研究者支援オフィスまでご連絡ください。

## 女性研究者支援オフィス

### 女性研究者交流支援サイトは、

女性研究者同士の活発な交流を促進するネット上のコミュニケーションの場です。自由な意見交換や情報取得・共有のためのツールとして、ぜひご利用ください。

コミュニティページ みなさまのご参加をお待ちしています！

#### ● 教育活動について／寮とか部活どうですか？ *New*

教育活動、学生対応等について自由に意見交換できるコミュニティページです！  
ご自身の高専の取組紹介や、他高専の取組に関する質問など、何でも投稿してください。

#### ● リレー日誌

現在、26名の参加があり、リレー形式で日常の出来事や校務、教育、研究について書き込み、意見交換をしています。

#### キャリア形成ページ

##### ● メンター制度

女性研究者が研究活動と生活を両立するうえで抱える問題や、キャリア形成をしていくうえで遭遇する問題などについて相談できます。

### 平成26年度

#### 研究支援員配置制度の利用者選考結果

提出された「研究支援員配置利用申請書」を基に、家庭状況や研究支援業務等を総合的に審査し、決定いたしました。今年度は予算範囲を越えた申請状況で、かつ、申請者は支援対象者としての必要性を有していることを勘案し、利用時間に上限が付帯されました。

採択15件（女性14名、男性1名）

#### 独立行政法人国立高等専門学校機構

##### 男女共同参画推進室

〒193-0834 東京都八王子市東浅川町701-2  
E-mail danjo@kosen-k.go.jp  
TEL 042-662-3151/FAX 042-662-3131  
http://gender.kosen-k.go.jp/